

国語 第5学年 言葉について考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

同じ内容でも相手や場面によって適した言い方が異なることを確かめ、伝えたい意図に合う語句を選ぶ。丁寧な語に機械的に替えるだけにせず、相手がどう受け取るかを実際の場面で考える。単元の終わりに残すのは、言葉の使い分けカード。同じ用件について相手の違う文を作り、変えた語句とその理由を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと(1)ウ	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

語感や言葉の使い方を意識し、言葉が相手との関係を作る働きに気付ける。相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方を意識し、言葉が相手との関係を作る働きに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全3時間（知・技①、書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手や場面の異なる例を読み、同じ内容の伝わり方の違いを確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○相手と目的を決めて文を書き、語句を選んだ理由を話し合う。	思①（発言・学習記録）
第3次	3	○受け取り方を確かめて文を直し、日常で使うときに気を付けることをまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じお願いを伝えるなら、この相手にはどの言葉を選びますか。言い方を変えると、受け取り方はどう変わりますか」 【めあて】同じ内容でも相手や場面によって適した言い方が異なることを確認、伝えたい意図に合う語句を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・親しい友達にかたい言い方をすると距離を感じることもある。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「同じお願いを伝えるなら、この相手にはどの言葉を選びますか。言い方を変えると、受け取り方はどう変わりますか」 伝える相手と目的を決め、同じ内容を異なる語句で書き表す。読み手に受け取り方の違いを聞き、伝えたい意図に合う語句を選んで文を書き直す。選んだ言葉の意味や語感と、修正の理由を説明する。 〈予想される児童の反応〉 ・親しい友達にかたい言い方をすると距離を感じることもある。 ・お願いの理由を添えると受け止めやすくなる。 ・似た意味でも強く言いすぎる言葉がある。	相手・目的・場面を示した教師作成の例を比べる。言葉を選ぶ理由を、語の難しさではなく受け取り方から説明させる。児童の家庭の言葉や方言を低く評価しない。 想定する難しさ：丁寧で長ければよいと判断する。似た語句をどの場面でも同じ意味と考える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫している。（相手と目的を記した文・語句の修正と理由）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・似た意味でも強く言いすぎる言葉がある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「同じ願いを伝えるなら、この相手にはどの言葉を選びますか。言い方を変えると、受け取り方はどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

難しさとして、丁寧に長ければよいと判断する。似た語句をどの場面でも同じ意味と考える。この場合は、相手・目的・場面を示した教師作成の例を比べる。言葉を選ぶ理由を、語の難しさではなく受け取り方から説明させる。児童の家庭の言葉や方言を低く評価しない。おおむね満足できる状況は、相手と目的に合う語句を選び、意図が伝わるように文の書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 言葉の使い分けカード。同じ用件について相手の違う文を作り、変えた語句とその理由を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」249行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

